

第五章 三つの政治文化—ボランテアを進める政治・社会的文化

神江 伸介

はじめに

香川県東部を、ほぼ南北に縦断する細長い形で位置する三木町は、いくつかの村が合併したコミュニティである。基本的に、高松市郊外地区として発展している地域、かなり郊外から離れているが琴電沿線の地域、そして南に広がる農村地域に分かれる。三木町は、西地区から東地区、そして南地区へと移動するにしたがつて、高松市郊外の最も都市化された地域から東部のやや都市部から遠い地域、そして過疎化しつつある南部域に分けられる。西地区には香川大学の農学部、医学部（付属病院も）が存在し、東地区には旧型、新型特養の二つが所在する。二〇〇五年の調査をまとめるに当たりこの三つの地域を原則として、現大字地域¹旧村をまとめることによりデータベースを作り、二〇〇五年度に実施した町民調査の分析をする。

人口動態と産業上の実態としては左に見るような状態である。

西地区では、人口八四六一人（一九五五年）から一一三八九人（二〇〇〇年）と二九二八人増

表5-1 三木町人口の増減

年次	西地区	南地区 K地区	南地区 T地区	南地区 H地区	東地区 S地区	東地区 I地区	総人口
1955	8461	3091	4520	5228	2440	3277	27017
1960	8124	2804	4239	4954	2287	3007	25415
1965	7960	2492	3800	4735	2141	2888	24016
1970	8280	2175	3537	4606	2006	2704	23308
1975	8748	1950	3642	4814	2090	2686	23930
1980	9011	1851	3717	5050	2408	2952	24989
1985	9808	1730	3771	5049	2586	3077	26021
1990	10277	1608	3748	5452	2781	3100	26966
1995	10966	1488	3603	5811	2825	3073	27766
2000	11389	1283	3482	6552	3133	2930	28769

えた。二〇〇〇年国政調査での一五歳以上就業者中農林漁業就業者は五・八%である。

東地区の全体では、人口五七二七人（一九五五年）から六〇六三人（二〇〇〇年）と三四六人増えた。二〇〇〇年国政調査での一五歳以上就業者中農林漁業就業者は九・八%である。

南地区の全体では、人口一二八三九人（一九五五年）から一一三一七人（二〇〇〇年）と一五二二人減った。二〇〇〇年国政調査での一五歳以上就業者中農林漁業就業者は一三・四%である。

本論においては、政治態度、信頼、ボランティアの順に述べられるが、論述の基本的問題意識は、高齢社会におけるボランティアを促進する政治文化は何であるか、である。特に焦点を、非高齢者も高齢者も携わる、高齢者に対するボランティア⇨高齢者ボランティアに当てている。

第五章 三つの政治文化—ボランティアを進める政治・社会的文化

第一節 三つの地域社会における社会経済的地位の違い

二〇〇〇年国勢調査で未成年人口も入れて高齢者人口をみると二〇・六％であり、二〇歳以上のサンプルで西地区が三一％、東地区が三一％、南地区が三四％であった(表5-2)。高齢者の内訳では西地区と東地区では後期高齢者が前期と同等かより少ないのに対し、南地区では五％以上上回っている。あえて都市から農村の連続体でランクをつけると、西地区—東地区—南地区となるであろう。これはまた、地域の産業構造ともほぼ対応している。

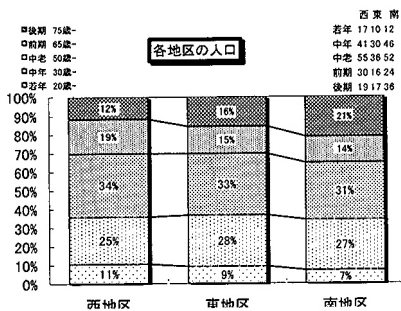


表5-2 各地区の人口

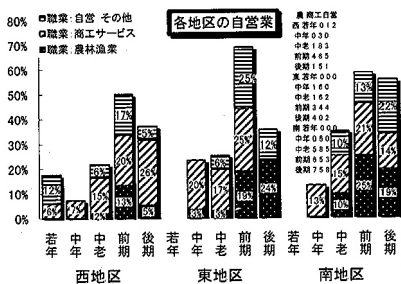


表5-3 各地区の自営業

「区」の自営業」によれば、農林漁業が西地区で前期高齢期が二三％後期が五％、東地区で前期が一九％、後期が二四％、南地区で前期が二五％、後期が一九％であった。東地区と南地区が農林漁業で近そうに見えるが、この項目は多数回答で取つてあるため、更に東地区に商工サと、自営・その他で比べると前期高齢期に圧倒的にこの多くのカテゴリーが集まっている。

第二節 三つの地域社会における政治態度の違い

(一) 政治参加

「表5—4 団体集会の三つの地域社会間差」によると、西地区の団体参加の特徴は、若—中年まで参加が上がらず、中老になると三〇%から六六%に跳ね上がるという特徴を持っている。しかも比較的に「よく出席」するものが出てそれは増え続けて後期高齢期には半数に達するといういわば民主的な側面を持っている。更に、前期高齢期には八割を超えそれは後期高齢期まで殆ど維持されるという活況を呈する。

比較のし易さから、次に南地区を見てみよう。西地区と対照的に、既に四四%という中年レベルから盛んな参加があつて西地区と同じ六五%という参加へと連続する。ところが、高齢期になると後期高齢期で参加度が維持できない(五六%)という違いが出てくる。更に、前期高齢期に「よく出席」するものが集中し中老以下が「よく出席」に参加度が低いという特徴がある。

東地区の場合、中年では若干低いものの五〇%という参加があり、それは前期高齢期まで同じだが後期高齢期になると急に落ち込むという特徴がある。

団体集会参加傾向が政治集会参加(表5—5 政治集会の三つの地域社会間差)になると極端な形で現れてくる。

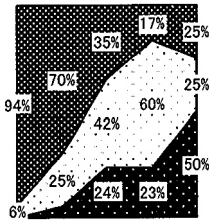
西地区は南地区も中年までは政治集会参加は一〇%、をきるといふ低さで、中老になると

第五章 三つの政治文化—ボランティアを進める政治・社会的文化

- 団体の集會-出席しない
- 団体の集會-ときどき出席
- 団体の集會-よく出席

実数→
(以下全
て同じ)

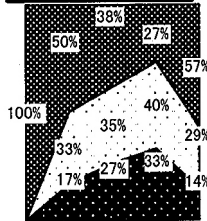
西地区団体集會



若年 中年 中老年 前期 後期

p<0.01 西地区

東地区団体集會

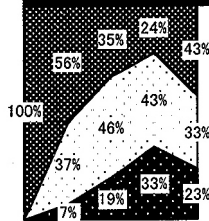


若年 中年 中老年 前期 後期

p<0.5 東地区

西地区	東地区	南地区
若年 17	若年 10	若年 12
中年 40	中年 30	中年 43
中老年 55	中老年 34	中老年 52
前期 30	前期 15	前期 21
後期 16	後期 14	後期 30

南地区団体集會



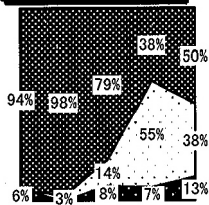
若年 中年 中老年 前期 後期

p<0.01 南地区

表5-4 団体集會

- 政治集會 出席しない
- 政治集會 ときどき出席
- 政治集會 よく出席

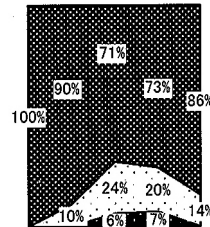
西地区政治集會



若年 中年 中老年 前期 後期

p<0.01 西地区

東地区政治集會

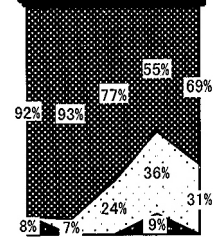


若年 中年 中老年 前期 後期

n.s. 東地区

西地区	東地区	南地区
若年 17	若年 10	若年 10
中年 40	中年 30	中年 30
中老年 52	中老年 34	中老年 34
前期 29	前期 15	前期 15
後期 16	後期 14	後期 14

南地区政治集會



若年 中年 中老年 前期 後期

p<0.01 南地区

表5-5 政治集會

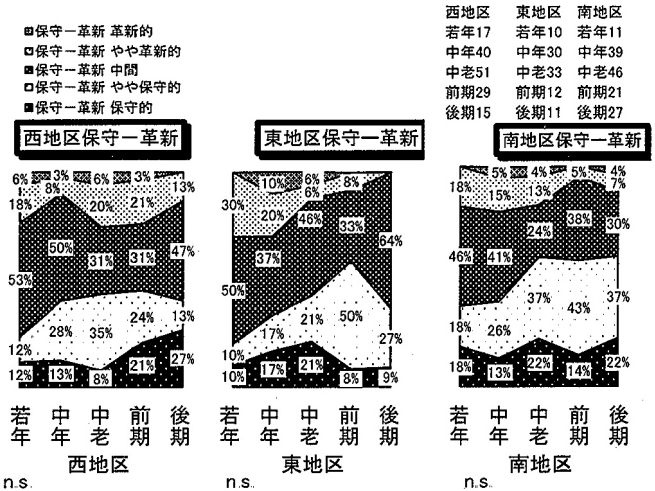


表5-6 保守-革新

(一) 保守—革新
 通常党派性で全面的に議論するのだが、町との話し合いで政党支持等が入れられなかったため、やむを得ず保—革新単発で議論をする。
 この変数の一般的性格としては、外的対象を持たずに内面的な態度が主となる。その動きの特色とし

二二%、前期高齢期六二%、後期高齢期は一二ポイント程度減るものの、まだ「よく出席する」ものは逆に増えている。南地区は、中年まで一〇%のレベルを維持し、その後は後期高齢期での落ち方が西地区より強い。東地区では、非高齢層は南地区とほぼ同じとしても高齢期になると他地区で見られた盛り上がりは全く見られなくなる。
 一言でまとめると、五〇歳以上で活発な西地区、高齢者で不活発になる東地区、大体全ての年齢層で活発な南地区ということになるであろう。

ては、日本人の特色として加齢に保守化であり、それで主たる供給源となるのが「中間」派である。そして後期高齢期になると「中間」派が増える形で政治的に不活性化してゆく。

「表5-6 保守—革新」によれば、ここでは東地区がその典型の形を示す。前期まで順調に保守化（「保守+「やや保守」）は二〇%から五八%まで増えてゆく。後期高齢期に入ると保守化は逆行し三六%まで落ち、変わりに「中間」派が実に六四%にのびる。

ところが、これに対して西地区と南地区が程度の差があるがそれを示していない。西地区では四三%の中老時に保守化は止まり後期高齢期になっても四〇%と一定である。南地区では、五九%にはなるけれどもそのままの値で後期高齢期まで行く。

動きの内訳は、都市部と農村部の違いを見せる。西地区では、中老の八%から後期の二七%まで「保守的」という保守の強化が進むし、同じ年齢層に革新的な階層が二五%入り込み、結果「中間」が割り込みにくそうにしている。対照的に、南地区では保守の内訳は中年で完成するとともに「革新」系の後退も顕著である。

第三節 ボランティアと政治

(一) 高齢者ボランティア

三つのグラフ（表5-7、5-8、5-9 高齢者ボランティアの経験—西、東、南地区）がいずれ

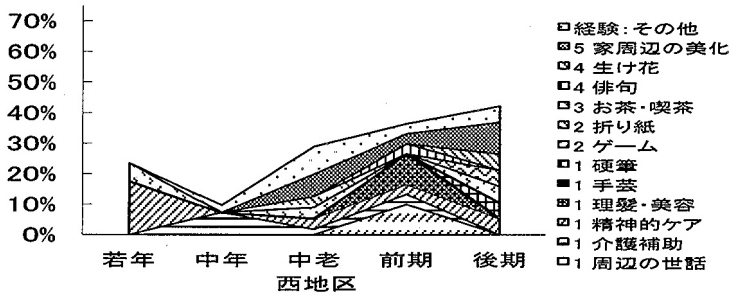


表5-7 高齢者ボランティアの経験-西地区

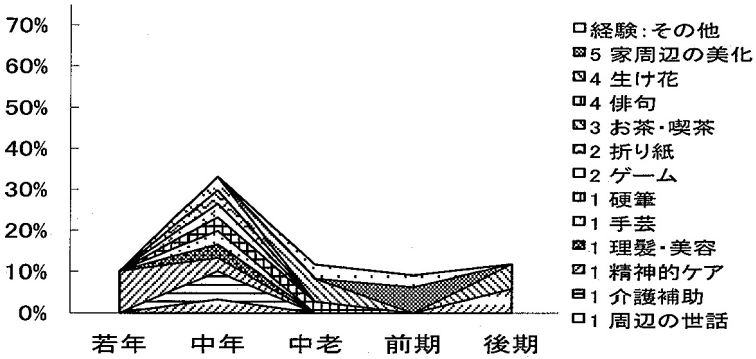


表5-8 高齢者ボランティアの経験-東地区

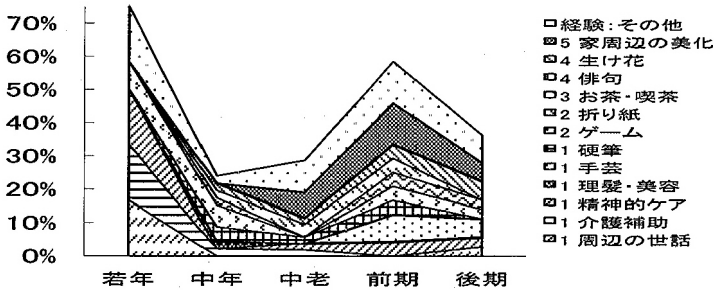


表5-9 高齢者ボランティアの経験-南地区

第五章 三つの政治文化—ボランティアを進める政治・社会的文化

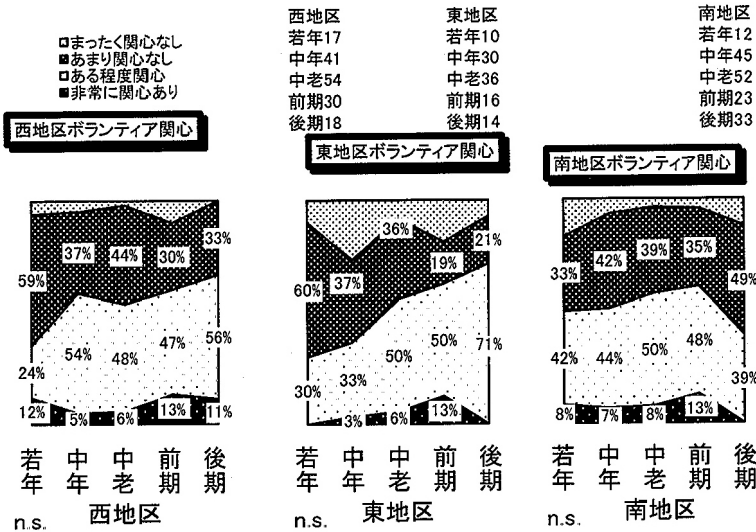


表5-10 ボランティア関心

も異なる形をしている。第一に、全体の量で言えば明らかに南地区が一番多い。次に西地区、そして東地区という順番になるだろう。

第二に、どの年齢層に偏っているかということでは、西地区は中老以上、東地区は中年、南地区は中年中老で低下するもののほぼ全年齢層にわたってボランティアが盛んである。更に、高齢者ボランティア種別という問題もあり、どの地区にどのようなボランティア盛んであり、どのボランティアが不足しているか、どのようなボランティア器具が足りないのか、講師は必要か、など様々な問題があり、自治体への提言に有用であるが、今回のテーマとはずれるので割愛する。

高齢者ボランティア総量の違いからいって、何がいえるのか。

第一に、都市型高齢者ボランティアの自治体的格の強まりである。西地区だけではないが、調査

には殆ど元気な高齢者が関与しており、地区では後期高齢期といえども前期におとらず関与している。自治的というゆえんは、非高齢者の関与が少ないことである。

第二に、農村型高齢者ボランティアの全コミュニティ関与的性格の強まりである。南地区に典型的に見られるのだが、中年中老は仕事・子育て等で多忙であるのは分かるが、むしろ二〇歳代の若いグループに関与が「すごい」面が見られる。逆に、後期高齢期になるとかなり衰える人もいて関与が衰退するが、それでも三つの地域社会の中では西地区と並ぶほどである。

第三に、中老以上殆ど関与がなくなった中年のみが細々と関与を継続させている東地区の存在は異常である。この地区に高齢者ボランティアの条件がないのか、二つの特養の存在により関与意欲を阻喪させられてしまったのか、これは今後の調査課題である。

(二) ボランティアと政治

従属変数を決めておこう。現在の事実ではなく、これからやろうとするボランティアに対する準備状態と、それに回帰させる変数の決定である。

ボランティアの準備状態としては、「ボランティアに対して関心がありますか」と聞いた質問を取り上げた。同質問は、高齢者ボランティアに特定せずにデフューズなボランティアについて、現在関心があつてやっているものも、将来関心が持てる可能性があるものも、聞いたものである。

表5-11

	西地区	東地区	南地区
r 2	0.1	0.1	0.2
ボランティア奉仕日-2値	*0.2	(-0.1)	**0.3
演説会・報告会-連続	*0.3	*0.3	*0.23
* = $p < 0.05$			
** = $p < 0.01$			
() = 有意性なし。			

容易に予想されたことである。それでも、政治集会の効果は厳然としてあり、これは「おわりに」で議論することにしよう。

独立変数は、政治集会参加、高齢者ボランティアの経験である。仮説としては、政治集会参加と高齢者ボランティアを経験したものは、ボランティア一般に対する関心も高めるし、今一層ボランティアへの意志を強める。特に、中老以降には顕著に現れる。

今一度従属変数の特性を見ておこう。「表5-10 ボランティア関心」によると、西地区と南地区はこれまで都市型と農村型としてみてきた変数の上下を示す。再説すると、西地区では若年で低く、高齢者で後期も高め高く、南地区では若—中年—中老—前期高齢期でたかく、後期高齢期で低い。問題は東地区であり、「関心」は若年の三〇%から後期高齢期の七一%まで右肩上がりに伸びきっている点にある。

結果は、ほぼ仮説通り、中高年における社会参加と政治参加がボランティアに重要な役割を果たすことを示している(表5-11)。ただ

おわりに

本論では、三つの地域社会における政治文化の違いと、それが持ちうるそれぞれの高齢社会への将来への対処の見取り図が描けたと思う。本稿での結果をまとめておこう（直接テキストで取り上げていない内容も含む）。

第一に、政治的態度の違いで、政治集会对する参加では、五〇歳以上で活発な西地区、高齢者で不活発になる東地区、大体全ての年齢層で活発な南地区ということになるであろう。また、「保守—革新」意識では都市部と農村部の違いを見せる。西地区では、保守の強化が進み、対照的に南地区では保守の内訳は中年で完成するとともに「革新」系の後退も顕著である。一貫票では、東地区と南地区の後期高齢者は超高齢期の右肩上がりを示しておりその意味では発展途上である。西地区の後期高齢者は前期高齢者と同じという意味で既に超高齢期がなくなっていることを示した。候補者に対する見方では、「地元か国か」では「地元」組が都市部の西地区に少なく、農村部の南地区に多いというのが観察されたし、「党か人か」では西地区で「党」重視の傾向があり、南地区では「人」重視の傾向を強める一方、東地区の後期高齢者が「どちらでもない」とする超高齢型政治意識を示す。

第二に、地域社会等に対する信頼では、西地区の高齢者の人々は個人主義的でありながら活発にボランティア活動に打ち込み、南地区の人々は集団主義の価値規範を持ちながらも西地区に劣

らず活発にボランティアにかかわるが、東地区の人々は、南地区と同じく集団主義ではあるが、ボランティアのような特定のな社会活動はまったくやらない。また、生活・政治満足では、東地区で高齢期での不満がかなり高いし、これは政治満足に連続し政治不満派が極めて多いのが目立った。国政信頼では、国政よりも地方の政治への信頼が強いし、農村部になるほどこの傾向は強化される傾向を示す全体的傾向に東地区も足並みを揃える。不満はあれど不信ではないということか。

第三に、現実実践している高齢者ボランティアに焦点を当てると、都市型高齢者ボランティアの自治的性格の強まり、農村型高齢者ボランティアの全コミュニティ関与の性格の強まり、異常な中老以上殆ど関与がなくなつただ中年のみが細々と関与を継続させている東地区の存在が明らかになつた。

最後に、政治集会参加と高齢者ボランティアを経験したものは、ボランティア一般に対する関心も高めるし、今一層ボランティアへの意志を強めるということが観察された。ただ東地区で政治集会のみしか影響を及ぼさなかつた点は、ボランティアへの道筋がか細いながらも描かれているが、政治参加だけではあまりに弱い。一番大きな原因は、高齢者ボランティアの実数が少なかつたことにあるが、高齢者のボランティアへの関心も高く、かつ政治不満も高く、かなり豊かな退職・引退者たちがなぜ現実の高齢者ボランティアを少なくしかやらないのか、地域で考えていくべき課題である。

現状では、都市部も、農村部も、あるいは、その中間に存在するコミュニティも、それぞれの課題を持ちながらも、ボランティアに対する実際の実際の行動をしめし、またその意欲を持ち始めたといえる。三木町に内包する異なる三つの政治文化に対して、中年における政治集会という共通する文化が追加されたことは、高齢社会に対処する処方箋の発展に対し大きな期待を与えるだろう。